

ら、比較的高い放射線量の箇所が市内に存在し、除染に関する問い合わせを多く頂いていることから、市民の不安を解消し、特に本市の将来を担う子どもたちが、今後も安心して住み続けられる環境を取り戻すことが急務と考え、私有地を含めた除染計画の素案を策定しました。

## 計画は全市域を対象に

素案では、国の基準（測定高50センチメートルから1メートルで毎時0・23マイクロシーベルト）より厳しい測定高5センチメートルで毎時0・23マイクロシーベルトを基準として、全市域で追加被ばく線量が年間1ミリシーベルトを下回ることを目標にしています。

そのため、全市域を対象に、市

が主体で、子どもが利用する文教施設をはじめとして、多くの市民が利用する公共施設や私有地（戸建て住宅や集合住宅の敷地など）の除染を進めることとしました。まず、先に着手した学校や公園などは、一部の公園を除いて3月中に除染を完了し、このほかの公共施設などや私有地は24年度中の完了を目指します。

私有地の除染は、天地返しを基本に、雨どい下や雨水浸透ますなど、局所的に高線量となる箇所と毎日使用する玄関や物干し場などを優先して実施し、これらが完了した後に残る基準超過箇所の除染を検討します。

なお、除染は同一敷地内処理とし、側溝やコンクリート部分も対象としますが、現時点で側溝汚泥やコンクリート部分の洗浄で

## 薪ストーブなどの灰は市で処分

市では、3月1日から、薪ストーブや木炭を燃料として利用して発生した灰を回収します。灰は、一般ごみに出したり、庭や畑にまいたりせず、水を通さない袋に入れて、人が近寄らない場所に保管し、必ず

清掃第一課または関宿クリーンセンターにご連絡ください。※灰は放射能濃度を測定し、安全性を確認した上で処分します  
【問合せ】清掃第一課 ☎7138-11001、関宿クリーンセンター ☎7196-0022

発生する汚水の処分方法が確立されていないため、処分方法が決まり次第対応することとします。

また、極めて線量が高い土壤は、市が設置する仮置き場に、雨水浸透ますに堆積した落ち葉や雨どい下の芝などは、市が設置する廃棄物仮置き場に保管します。除染箇所決定のための測定は

## 多様な生物を育む地域を目指し

## 市民と連携してコウノトリ飼育へ

市では、平成18年から江川区で展開してきた自然再生の取り組みに加えて、農業に替えて殺菌効果のある玄米黒酢を散布したり冬でも田んぼに水を張ったりするなど、環境に優しい農業を全市域に広げ、多くの生き物が生息できる地域環境づくりに取り組んでいます。

結果、市内のあちらこちらで、ホタルやドジョウなど、多くの生き物が戻ってきています。これまで進めてきた生物多様性の保全・回復の取り組みが後世に引き継がれるよう、市では生物多様性のシンボルとして、かつて関東地域の空を舞い、田んぼの食物連鎖の頂点に立つて

申請によるものとし、申請者は土地の所有者や借地権保有者、マンションの管理組合とします。申請の受付は、自治会回覧で行いますが、未加入の方は直接申請できることとし、体が不自由なひとり暮らしの高齢者など、申請が困難な方には、市が申請の補助を行うこととします。

いたコウノトリの舞う里を目指し、今年の秋から江川地区で飼育する準備を進めています。1月28日には、コウノトリの飼育や将来的な野生復帰の取り組みへの理解と関心を深めていただくとう、「コウノトリと共生するシンポジウム」を市役所で開催し、23人が参加しました。

シンポジウムでは、根本市長が野田市のこれまでの取り組みを発表するほか、自然保護や環境整備に取り組む団体や地域の子どもたちからのメッセージの発表もありました。

さらに、コウノトリ飼育・放鳥の先進地である兵庫県豊岡市の中貝宗治市長による「コウノ



コウノトリ野生復帰で地域経済の活性化も

トリと共に生きる「豊岡の挑戦」と題した講演や両市長のパーソナルトークも行われました。今後は、コウノトリの飼育に向け、専門家による有識者会議で、「野田市におけるコウノトリの生息域外保全計画」を策定し、国や県、関係機関と協議しながらコウノトリの借り入れまたは譲り受けの準備を進めていきます。

【問合せ】みどりと水のまちづくり課